

木通 信もれ日

K o m o r e b i T s u s h i n

第39号

平成22年1月
つきだて花工房発
季刊誌

〒960-0903 福島県伊達市月館町下手渡字寺窪7
つきだて花工房 TEL024(573)3888 FAX024(573)3887
つきだて交流館もりもり TEL024(571)1777 FAX024(571)1787
休館日/毎月第1、第3火曜日(休館日の前日は17時まで営業)
つきだて花工房ホームページ <http://t-hanakobo.jp/>
つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

花のアルバム

アルバムの
39ページ
ウメ

梅の花が咲きほころぶ
その年は豊作：
いつか そんな話をきいた
酸郁たる香り
膨らむつぼみ
梅の精霊が自然界に
魔法をかけてしまうのかも



梅の花(花ことば 喜び、澄んだ心)
撮影協力 関根義偉様(月館町)

新しい春に甘くいい香りを届けてくれるのは梅の花。「春告花」「風待草」「好文木」などの異名を持ち、かつては「この花」と呼ばれるほど、あこがれがよせられた花木です。万葉集で梅を詠んだ歌は、萩に次いで2番目に多く、花見も桜ではなく梅見のことでした。日本人の暮らしと密接に結びついている梅は、古来より装飾の模様や家紋に使われ、絵画の題材や工芸品の文様にも存在感を示しています。観賞用としても用いられ、新年の松竹梅なども、そのひとつ。風雪や厳しい寒さに耐えて緑を保つ松と竹、他の植物に先駆けて花開く梅が、吉祥の象徴とされてきました。



た参加された
松づくり体験に
松さん(梁川町在住)の作品。
後藤さん(梁川町在住)の作品。
松竹梅が描った

梅は中国原産、バラ科サククラ属の落葉高木。奈良時代以前に、中国から生木ではなく薬用として渡来しました。未成熟の実を煙で黒く燻し乾燥させた烏梅(うばい)は、遣唐使が持帰ったと言われる漢方薬。腹痛、食あたり、慢性の咳、頭痛、風邪などに薬効があり、民間薬としても重宝されています。梅干の酸っぱさのもとになっているクエン酸は疲労回復に効果があることから、「梅はその日の難逃れ」という言葉があるほど、朝の食卓には欠かせない食品でした。

いい塩梅(あんばい)

ほどよい加減をさす言葉として用いられる「塩梅」。本来は塩と梅酢を合わせた調味料を意味し、「えんばい」と読まれていました。やがて食物の味を整えること、味加減そのものことも言うようになり、また、からだや天気の意味も指すようになりました。日常生活のバランスを微妙に表現している、大切にしたい日本語です。

旧暦のはなし

前回まで書いたように、旧暦は実際の季節に寄り添うように進んでいく暦です。二十四節気や雑節といった季節の区切りだけでなく、今が旧暦のどのあたりにあるのかわかると、「なんで今頃?」といった気象状況も、案外納得できる場合があるのです。

私たち日本人は長い長い時間、稲作を中心とした農を生活の基盤として暮らしてきました。明治以降今なお、多くの日本人が土を離れて、離れようとしてあくせくしています。土を離れた生活の中で、季節は単に暑い寒いを繰り返す現象に過ぎないのかもしれない。しかし、人間が人間である以上、自然から隔絶して生きることはできません。

人工照明が溢れる都会で、旧暦を刻んでいる月は、その存在すら忘れ去られているようです。一度、田舎の月夜を味わってみませんか? その青白い光は、それをながめる人の影を、くつきりと地面に映し出します。そして、そんな田舎では、旧暦と寄り添う暮らしが息づいています。

はじまりの朝

凜とした空気の冬の朝
自然界の織り成す
神秘的な風景に心を傾け
一日の始まりに感謝します
行く年も 来る年も
ふるさとの朝が
静かに 平和に
はじまりますように



つきだて花工房から日の出を望む

お食い初め



杏那ちゃんのお祝い(月舘町)



晃我くんのお祝い(月舘町)

地域によって習慣が異なりますが、「百日(ももか)の祝い」とも言われるお食い初めは、生後百日目にわが子が一生食べ物に困らないようにと願い、初めて箸を使って食事をする儀式のこと。赤ちゃんが男の子なら男性、女の子なら女性の長老が「養い親」として食べさせるまねをします。

つきだて花工房では、

●ごはん(食べ物に困らないように) ●小石(歯固めとして) ●梅干(しわを長寿にみたくて)を祝い膳としてご準備し、ご家族と共に祝いをしていただいています。

福島市出身で、今年生誕百年を迎えた古閑裕而さんの「高原列車は行く」をはじめ、心温まる名曲の数々を披露してくださいました。ふと、わが町・月舘小学校の校歌が古閑先生の作曲であったことを思い出しました。懐かしく口ずさんでいました。

「コールアンボ」は町特産の「あんほ柿」から名づけられたもので、あんほ柿に吹く白粉のように、共に白髪が生えるまで大好きな歌を歌ってゆこうという想いが込められているそうです。

heart to heart

二階堂さん(月舘町)

12月22日の冬至に先駆けて
柚子を飾るようにと、バイクに
積んでもってきてくれました。



キッズスマイル



香菜子ちゃん・美羽ちゃん

お母さんがしめ縄づくりをして
いる間、ロビーで仲良く読書

コールアンボのみなさま(梁川町)



合唱団の創立者で

梁川町で40年以上活動を継続されている「混声合唱団・コールアンボ」のみなさんが、つきだて花工房にお出かけくださいました。

山越え 谷越え
はるばると
ララララララ
ララララララ
高原列車は
ラララララ
行くよ
(昭和29年) 作詞 丘灯至夫
作曲 古閑裕而

歌声高らかに



▲一貫張り体験

古いザルやカゴに古紙を貼り、柿渋を塗って仕上げた「一貫張り」。考案した人の名前をとって「一貫張り」とも、一貫目の重さにも耐えるから「一貫張り」とも言われます。講師は福島市の渡辺恵美子さん。みなさん、思い思いの紙を根気良く貼っていました。



▲朝霞法人会様

はるばる埼玉県から、うどん打ちの研修にいらつしやいました。かの地でも小麦の生産とうどん打ちは盛んなようで、講師を務めた小山さん(和食処「正伍郎」)と話が弾んでいました。

ご案内

- 梅見月会席膳のご案内 2月17日(水)-18日(木)-19日(金)の3日間 時間/18:00~21:00 料金/5,000円(税込み) ご予約数/1日6組30名様まで
- 年末年始の営業 12月30日(水)は18時で閉館 12月31日(木)・1月1日(金)は入浴のみ営業。(10時~18時)
- 1月の休館日 1月12日(火)~15日(金)、26日(火)



体験しながら つきだて花工房に 泊まろう

緩やかに流れる時間が、いつそうゆつたりと感じられるシーンがやってきました。
冬の陽だまり、囲炉裏のぬくもりを感じながら、グループで、個人で、宿泊しながらの里山体験はいかがでしょう？
そこにはきっと、忘れかけていた素朴な豊かさが見つかるはず……。

布ぞうりを編もう (要予約)

たんすに眠っている古布が、おしゃべりなぞうりに蘇ります。自分用の次には、プレゼント用と、夢中になる体験かも……。

- 所要時間 約二時間三〇分
- 体験料 八〇〇円(布持参)
- 人数 二名から

この冬は食体験が盛りだくさん! 体験日時が決まっている プログラム

- 韓国家庭料理とキムチ作り
1月20日(水)・2月10日(水) 2,500円
- うどん打ち
1月23日(土)・2月13日(土) 1,000円
- 豆腐作り
2月6日(土)・3月6日(土) 1,000円
- こんにゃく作り
1月30日(土)・2月27日(土) 800円
- 水餃子作り 3月7日(日) 1,000円
- ぼた餅作り 3月20日(土) 1,000円

※詳細は交流館もりもりまでお問い合わせを
TEL.024-571-1777



おもしろ食材

シルバー作品展で見つけたウコン
※ウコンとハルウコンは変形はよく似ていますが、薬効に大きな違いがあるので気をつけて!



畑から始める味噌作り うどん作り

畑仕事をやってみたい方大募集!
三年制の野菜作り体験プログラムで、現在五組の皆さんが野菜作りの楽しさを満喫しています。今回の募集定員は一組。年会費と年間十回程度の授業日には指導料が必要となります。作った人だけが味わえるおいしさを、一緒に味わってみませんか?

買うのが当たり前の食材、味噌や小麦粉を、種から作ってみませんか?
額に汗して体を動かす楽しさや、作物が実を結び、味噌やうどんに生れ変わっていく喜びを一度味わったら、やみつきになるかも? 味噌作りでは四キロの味噌(オブションで八キロまで増量可)を、うどん作りでは自分で打ったうどんの他に1キロの小麦粉(キヌアズマ)を持ち帰ることが出来ます。

田舎風うどんづくり (要予約)

月館産小麦、キヌアズマを使用して打ちうどん作りに挑戦。和気あいあいの時間が流れます。



竹のクラフト (要予約)

小鳥の声で目覚めるつきだて花工房の朝。手づくりの笛を持って森に入り、小鳥と交信できたら、うれしき一〇〇倍。冬鳥と交信! ウグイス笛づくり

- 所要時間 約三〇分
- 体験料 五〇〇円
- 人数 一名から

体験プログラム 参加者募集

会員制の体験プログラムの参加者を募集します。

ノラ学校

畑仕事をやってみたい方大募集!
三年制の野菜作り体験プログラムで、現在五組の皆さんが野菜作りの楽しさを満喫しています。今回の募集定員は一組。年会費と年間十回程度の授業日には指導料が必要となります。作った人だけが味わえるおいしさを、一緒に味わってみませんか?

お便りコーナー

●阿武急むかし語りに語り部として出て、つきだて花工房に宿泊した「木もれ日通信」を拝読。花工房の環境と同じようにホッとします。色々なイベントがあるようで羨ましい。このような環境でじっくり昔話を語りたいと思います。機会があったら、友と再訪したいです。奥羽山中に育った私は、やわらかい阿武隈山地がやさしいと感じました。(高橋はじめ様・秋田県)

●花 恵まれた職場環境に、いつの日も感謝です。何も語らないふるさとの風景に、癒されたり、勇気をもたらしたりしています。

●木もれ日通信の、やさしい、心にしみる文章が好きです。虫眼鏡を片手に写真の中に懐かし顔を見つたりして楽しんでます。二十八号では安孫子先生の元氣な顔を見つけました。ほっとする時間をいただいています。(斎藤せい子様・月館町)

●花 今回も虫眼鏡で懐かしのお顔を探してみてください。木もれ日通信では皆様からのお便りをお待ちしております。

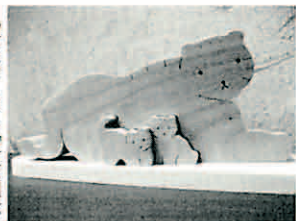
木もれび39号プレゼント

空とぶくじら

「千支組木」を 5名様にプレゼント

官製はがきに住所、氏名、年齢と本もれ日39号で印象に残った記事及び感想等をご記入の上、プレゼント応募券を貼ってつきだて花工房までお送りください。平成22年1月31日の消印まで有効です。

(ご記入いただいた個人情報につきましては、だて花工房が責任をもって管理、保管し当館のご案内をお送りするほか、サイブス向上のために利用させていただきます)



空とぶくじら「千支組木」
39号プレゼント当選者
古川広子様(京都市)
須崎法子様(静岡県)

編集後記

一年なんてあっという間。毎日忙しくて何があったか覚えていない! という人も多いのでは! 私も、周りの景色をよく見ることが出来ませんでした。インフルエンザの感染力が強く、世界中が予防と対策に追われている状況なんなん。健康第一。自分の健康はもちろんな。家族みんな、健康で楽しく暮らせたら。それが一番の願いです。(今宮)

●バラと並んで、今のマイブームは沖縄の民族楽器「三線」。たまたま本屋で某国営放送の三線講座のテキストを発見。入手して以来、現物なくしてこの講座を視聴し続けられるかどうか、非常に不安な日々を過ごしている。「ていんさぐの花」などの沖縄民謡を爪弾き自分を想像するのはとても楽しい。ギターもお休み中なのに……。それでもいいのか? (須治)

●まっさらな手帖を手にして、新しい年こそ今年の失敗を生かして、年末恒例の決心をかためておりましたが、鬼に笑われてしまいました。まずは「いい塩梅」に暮らせることに感謝です。月の館に住まう私は、元旦の夜が満月!と知って勇気が沸いてきたという単純な性格日あかりが、新しい年とみなさんの心をやさしく照らし、良い一年となりましよう。(佳代)

ムーンセラピー
月の明かりで疲れた心を癒したい。
いますぐカレンダーにチェック!!

【満月の夜】

1月1日(金) 1月30日(土)
3月1日(月)

【新月の夜】

1月15日(金) 2月14日(日)
3月16日(火)

木もれ日通信39号
読者プレゼント
応募券